

提言 2 ・外国籍市民等が地域との交流を深められるようにするため、多文化共生推進のための地域の身近な場所や活動の機会、手段を充実させるとともに、外国籍市民等の情報の受発信を支援する取組を行うこと

主旨	内容
多文化共生推進のための拠点・機会・手段等の充実	<p>韓国には多文化図書館というものがあり、そこには外国語の本がたくさん配架されている。また、積極的に外国人が図書館に来たくなるようなイベントを開催している。その結果、自然に外国人が図書館に集まってくる。そして行政は多文化図書館に相談窓口を設置して、外国人の相談に乗るといった取組を行っている。</p> <p>一方、多文化図書館では韓国人は外国人から料理を教えてもらったり、言葉を教えてもらったりできる。</p>
	<p>図書館や児童館など、地域に根付いたところで何か活動をしていくことが非常に大切である。東九条のネットワークサロンも、気軽に交流できる場として大事である。</p>
	<p>東京子ども図書館は、二つの言語の狭間で生きる子供たちが、母国の文化に誇りを持ち、周囲の理解を得ながら成長する一助にと多言語の絵本をたくさん置いている。このような多言語図書館は、外国人と日本人の交流の場にもなる。</p>
	<p>多文化共生に関する問題の解決には、いろいろな団体や地域を巻き込みながらネットワークを作っていくことも必要である。</p>
	<p>多文化共生の推進は国際交流協会の仕事であって、自分たちの仕事とは関係ないと考えている職員も多い。多文化共生の担い手になるという意識を持つようにするには、職員研修が有用である。</p>
	<p>「エブリデイワン」という取組は、毎日何か楽しみを提供するというもの。宿泊を通じて、異文化を理解する気持ちが生まれる機会を提供していきたい。</p>
	<p>多文化理解を深めるためには、メディアの活用が有用である。</p>
	<p>日本語だけでなく、外国人が自らの言語や文化を発揮する場も大事であり、その両方のバランスをとりながらやっていくことで、日本人も学ぶことができる。</p>
	<p>日本語がしゃべれないというだけで、自己を表現する場がなければ、精神的に落ち込んでしまうことがある。</p>
	<p>外国人を生かすためには、外国人の母語を活かせる場所づくりが大切である。</p>
<p>外国人相談者が自身の問題を解決した後、講師として話をしてもらったり、支援の側に回ってもらうと、その人たちは自尊心を取り戻すことができる。</p>	

主旨	内容
外国籍市民等への情報提供	<p>英語のアナウンスなどの取組をしていたとしても、外国人に本当に伝わっているのか。京都の市バスでは英語アナウンスが実施されているが、そこでの英語はひどく聞き取りにくい。</p>
	<p>ローマ字表記のないバス停が非常に多く、不親切に感じる。</p>
	<p>外国人を支援する団体は数多くあると思うが、なかなかその情報が伝わってこない。地下鉄などみんながよく行くところで周知したら良いと思う。</p>
	<p>回覧板や市民しんぶんなどを多言語対応したら良いと思う。</p>
	<p>地下鉄やスーパーなどわざわざ役所に行かなくても情報を入手できる場所を作る必要がある。</p>
	<p>スマホアプリやSNSを通じた情報提供することが必要。</p>
情報の発信 語学の支援	<p>語学は、外国人が自立していくために非常に大事だと感じている。</p>
	<p>職業訓練と同時に日本語学習支援を行うことで、就業率が上がるという報告もあるため、そういった工夫をすることが必要。</p>
	<p>フランスでは、滞在許可を受けた外国人で、一定の語学力以下の人については、フランス語研修が義務付けられている。</p>